香川県立保健医療大学リポジトリ

"香川県立保健医療大学における地域健康サポーター実習の紹介"

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2023-03-27 キーワード (Ja): キーワード (En): community, health, practical training, experiential learning, independence 作成者: 岡田 , 麻里, 片山 , 陽子, Okada, Mari, Katayama, Yoko メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.50850/0000000368

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.

香川県立保健医療大学雑誌　第14巻，51－57，2023

【資料】

香川県立保健医療大学における地域健康サポーター実習の紹介

岡田 麻里[1)]*，片山 陽子[1)]

[1)] 香川県立保健医療大学保健医療学部看護学科

要旨

本稿の目的は，2021年から開始された香川県立保健医療大学保健医療学部看護学科における地域健康サポーター実習の紹介である．地域健康サポーター実習は，2から4年次生の間に，授業や実習などがない自由時間内で，学生が自ら計画し（2単位：10日間）実施する．地域に主体的に参画し体験型学修を行うことで，地域における健康を支援する活動の在り方，参画者の姿勢や態度を実体験として学ぶことを目的とする．4月に3年次生による報告会および2年次生のためのオリエンテーション，9月に学生の実施状況の途中経過を把握するためのアンケートを実施する．2021年度の報告会では，子育て支援，障がい者支援，高齢者支援，災害支援ボランティア，健康支援，赤十字奉仕団，日本在住外国人支援に関する活動等があった．3年次生の活動記録から得られた主な学びは，『活動を通して喜びや楽しさを実感する』『異世代や多様な交流を通して，人との関わり方・配慮の仕方を学ぶ』『自ら活動を企画する難しさ面白さを学ぶ』，『地域活動に対する自分の姿勢や向き合い方の課題に気づく』の4つに分類できた．2年次生は3年次生の報告から，主体性の大切さや，自分たちでルールから考え活動を創り上げることの大切さ等を学んでいた．今後の課題は，本実習を通して活動を継続する支援と地域貢献の機会とすることである．

Key Words：Community（地域），Health（健康），Practice（実習），Experience-based learning, Independence（体験型学修）

はじめに

平成30年に日本看護系大学協議会による「看護学士課程教育におけるコアコンピテンシーと卒業到達目標」において，生活者として存在する人間を包括的に理解する4つのコアコンピテンシーが示された．様々な生活課題や健康課題をかかえる子どもから高齢者までのライフステージにある人々が，共に暮らす地域の人々の暮らしに寄り添い，生活者としての対象を理解し，多様な職種と協力しながら柔軟に支援方法を創造できる人材の育成は喫緊の課題である．さらには，障がいの有無や健康のレベルに関わらず誰もが住み慣れた地域で人生の最期まで暮らし続けられる地域包括ケアの推進，地域共生社会の実現に貢献できる人材の育成が求められている．

このような背景から，本学看護学科の教育目的は，『人の尊厳の擁護と科学的思考を中核とする看護実践能力を身に付け，看護専門職として地域の人々の健康で幸福な生活の実現に貢献する，自律性と創造性が発揮できる人材の育成』である．2020年から始動した新新カリキュラムにおいて，とりわけ地域で暮らす生活者を対象とした看護のあり方について検討し，専門職や地域住民との協働から，主体的な学びを得る地域健康サポーター実習を新たに立ち上げた．

本実習は，地域住民の健康生活を支援する「地域健康

*連絡先：〒761-0123香川県高松市牟礼町原281-1　香川県立保健医療大学保健医療学部看護学科 岡田 麻里
E-mail: okada-m@chs.pref.kagawa.jp
＜受付日2022年10月6日＞　＜受理日2023年1月6日＞

サポーター」として，学生が２年次生から４年次生の間の自由な時間を使って実施する実習である．地域住民や専門職，教員らの助言も活用しながら，主体的に計画し自ら取り組むボランティア活動である．本実習はガイダンスや統括する教員のみではなく，学科の多くの教員の参画により実施している．

本稿は，2021年から開始された本学の地域健康サポーター実習内容と取り組みについて紹介することを目的とする．

地域健康サポーター実習の紹介

1.実習の全体像と地域健康サポーター実習の位置づけ（図１）

本学の看護学実習は１年次に看護学導入実習，看護技術論実習を実施，学年ごとに段階的に積み上げていく仕組みである．地域健康サポーター実習は，２年次から４年次の間で，授業や実習などのない自由時間等をもちいて，自分で計画して実施する必修科目である．単位は２単位，実習日数は10日間である．

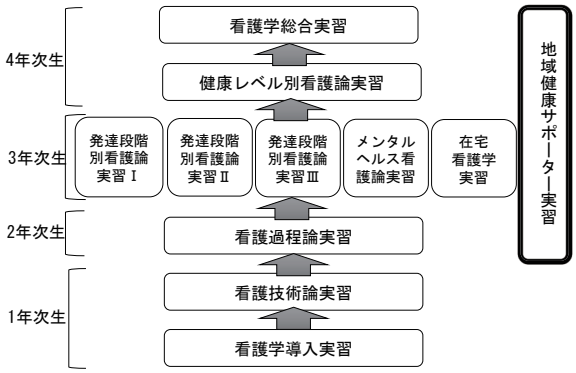

図１．香川県立保健医療大学の看護学実習の全体像と地域健康サポーター実習の位置づけ

図１．香川県立保健医療大学の看護学実習の全体像と地域健康サポーター実習の位置づけ

2. 地域健康サポーター実習の目的と目標

表１．に本実習の目的と７つの目標を2022年度実習要項に示した．地域に主体的に参画し，体験型学修を行うことで，地域活動の在り方，参画者の姿勢や態度を実体験として学ぶ．様々な人々との出会いと交流を通して，社会的スキルや視野の拡大を意図している．また，自分の学びを他者と共有することで，自己を俯瞰し他者の学びからも学ぶことを意図している．

3. 実習内容と４年間の流れ

学年ごとに体験する主な流れを表２に示した．
主な学内での流れは2021年４月オリエンテーション，９月途中経過把握のためのアンケート，2022年３月報告会の準備，４月報告会の開催であった．

１年次生は３年次生の報告会に参加することで，学生が地域で活動することの具体的イメージをもち先輩たちの学びから学ぶ．２年次生は，３年次生の報告会とブースでの交流会に参加し，自分が実際に活動できるように具体的な情報収集する．３年次生は，報告会や交流ブースの企画・運営を通して，学びを語ることで，自分の実践の意味を振り返り，学びを深化させる機会とする．４年次生では下級生の活動支援や主体的な活動継続がなされ，単位認定される．

記録様式とポートフォリオの作成について表３に示した．いつ，どこで，どのような目的で，何をするか，計画を立て（様式１），実際に何をしたか，活動の成果や課題などを記録し，学年担当教員らと振り返りをする（様式２）．活動の根拠となる写真，動画，チラシ，プログラム等，各様式と共にファイリングし，他者と共有できるようにポートフォリオを作成することとした．

３年生による実習報告会の主な流れを表４に示した．
1，２限は主にパワーポイントを用いて１年次生２年次生を対象とした報告会とした（写真①②）．３限は３年次生と２年次生が直接交流できるようにブース形式とした．実際の活動の写真や動画，活動経過をファイリング

表１　地域健康サポーター実習の目的と目標

Ⅰ．目的
地域住民の健康生活を支援するために「地域健康サポーター」として自ら地域住民との活動を企画・運営・実施するとともに、地域において様々な形態で実施されている保健医療福祉の活動や住民活動に主体的に参加し、体験型学修を行うことによって、地域活動のあり方、参画者の姿勢や態度を学ぶ。また、幅広い健康レベルにある人々や異なる立場の人々との出会いを通じて、社会的スキルの向上と視野の拡大につなげる。本実習活動を通じて、学年間の交流と学生間での支援・相談を経験することにより、学年を越えた学生相互の学びあいを体験する。

Ⅱ．目標	
1	多様な地域の健康支援活動への参画について、自らの探究心に基づき長期計画・年間計画を立案できる
2	多様な地域の健康を支援する活動、実践を体験できる
3	多様な活動のあり方や目的に資する活動への参画方法を説明できる
4	体験した活動について報告し、プレゼンテーションできる
5	他の学生の学びを共有することによって、多様な学びの方略を概説できる
6	体験や人々との出会いによって、社会的スキル向上と視野が拡大したことが考察できる
7	看護学生としての自己を俯瞰し、地域で実践する看護について考えを深める

表２　実習内容と４年間の主な流れ

年次 / 月	4月	8月	9月	12月	3月
1年次	入学				
（2022入学生）	報告会参加				
2年次	報告会参加　計画作成		事業担当教員と振り返り		報告会準備
（2021入学生）	ｵﾘｴﾝﾃｰｼｮﾝ　実習開始		途中経過把握のアンケート		
3年次	報告会企画・運営		実習継続		
（2020入学生）	担当教員面接（ﾎﾟｰﾄﾌｫﾘｵ作成）				
4年次	活動報告会支援		下級生の支援・ボランティアとしての活動継続		
	担当教員面接（ﾎﾟｰﾄﾌｫﾘｵ作成）			単位認定	

表３　様式類とポートフォリオ作成

様式	名称	様式を活用した学修目標
様式1	年間計画	・いつ、どこで、どのような目的で、何をするか、主体的に計画を立て、自分で考えて行動する。 ・計画したことに対し、責任をもって行動できるようにする。
様式2	実習報告書	・自分なりのテーマ（自分なりの目的意識・問題意識）をもって活動する。 ・どのような活動をしてきたか、他者と共有・振り返りをして、自分の学びを確認する。 ・自分の活動の成果や成長を確認するとともに課題についても認識できる。
ポートフォリオ作成		
ポートフォリオの作成		・活動の根拠となる写真、動画、チラシ、プログラム等、をファイリングする。 ・担当教員のとの面談で、学びの振り返り、今後の自己の目標等を話し合う際に活用できるようにポートフォリオの作成・整理する。 ・就職面接などで活用できるようにする。

表４　実習報告会（成果発表会）プログラム紹介（2021 年度報告会）

実施日：4月第1週目　　3年次生：企画・運営・報告　　1･2年次生：参加

時間	活動内容		担当学生G
8:50 ～	オリエンテーション・初めのあいさつ		
9:00～	各活動紹介	・実施した活動紹介 ・活動を通して得られた学びや課題	1～11G
休憩			
～12:00	各活動紹介	・実施した活動紹介 ・活動を通して得られた学びや課題	12～19G
休憩・準備			
13:00～	各ブースで交流会	・交流を通した体験の共有 ・関心ある活動の情報交換 ・関心ある活動を通した学年間のネットワークづくり	19ブース
～14:30	片付け・終了		

写真①：大講義室での報告会 熱心に聴く２年次生

写真③：ブース形式による交流会
ポスター・ポートフォリオ等展示

写真②：３年次生が報告・司会進行など会の運営も行う

写真④：３年生の報告を熱心に聴く２年生

表５　実習オリエンテーションの紹介と配布資料

対象：2年生　1コマ　　実施日：4月報告会後

主な内容
・3年次生による報告会の感想と学びの共有
・どのような活動に参加してみたいか等の共有
・実習の目的・目標の確認
・様式類・ポートフォリオ作成についての説明
・諸注意：態度・交通費等・保険関係
配布資料
・2022年度　実習要項
・オリエンテーション次第
・名簿・アドバイザー教員配置
・活動紹介事業一覧表
・活動希望調査票
・様式1：年間計画
・様式2：年間報告書

したポートフォリオや，チラシ，グッズ等を用いて，交流を行った（写真③④）．報告及び記録目的のため口頭で学生に写真撮影の了解を得た．

報告会の数日後に２年生を対象とした地域健康サポーター実習のオリエンテーションを実施した．主な内容は表５に示した．３年次生による報告会の感想や学びをグループで共有し，自分はどのような活動をしてみたいかを互いに共有し，イメージを膨らませるようにした．その後，本実習目的と目標，様式記録やポートフォリオ作成について，活動に臨む看護学生としての態度，交通費などの経済的こと，保険の加入について説明した．

2021 年度の取り組んだ活動の紹介

1．９月に実施した途中アンケートから得られた学生の学びと課題

学生の活動経過として平均活動日数は 3.4 日間，10 月 31 日時点での活動日数が４日未満の学生が 68 名中 36 名であった．自由記述から得られた学びには「活動に参加した他者に喜んでもらえる嬉しさや達成感を感じた」「交流を通して自分が地域の人のためになることを感じた」「企画をつくることの難しさと達成感を感じた」「異

なる世代との関りから価値観や距離感を学ぶことができた」等の記述があった．一方困りごとや悩みでは，「コロナ禍で地域活動自体が中止になった」「他の実習日程との兼ね合いで活動に参加できなかった」「まだ１日も活動できていなくて不安」など，コロナ感染拡大により，計画通りに活動が進まない状況がうかがえた．

2．登録事業数と３年次生の認定日数状況

本実習フィールドは，主に教員がもつネットワークやフィールドを登録事業として学生に紹介した．2021年４月時点で11事業であったが，地域からの依頼や，学生が自分で活動を開拓するなど，報告会時点の登録事業数は16事業，報告会では19のグループに分かれて，各活動を報告した（表6）．子育て支援と，障がい者支援に関する報告がそれぞれ６グループ，高齢者支援に関する報告が３グループから報告された．また，災害支援ボランティア，健康支援，赤十字奉仕団，日本在住外国人支援が１グループずつであった．

表６　主な活動内容と発表グループ数

活動内容	グループ数
子育て支援	6
障がい者支援	6
高齢者支援	3
災害支援ボランティア	1
健康支援（健康教育企画）	1
赤十字奉仕団活動	1
日本在住外国人支援	1
合計グループ数	19

報告会終了時点での３年次生の平均認定日数は9.71日間（最低－最高：3 － 21日間）であった．10日間以上活動し１年間で認定日数を終了した者は68名中38名であった．

3．2021年度の活動の学び

様式２に記録された学生の主な学びを抽出し，４つに分類し表７に示した．『活動を通して喜びや楽しさを実感する』，『異世代や多様な交流を通して，人との関り方・配慮の仕方を学ぶ』，『自ら活動を企画する難しさ面白さを学ぶ』，『地域活動に対する自分の姿勢や向き合い方の課題に気づく』であった．

4．２年生のオリエンテーションと報告会による学び

オリエンテーションで話し合われた主な学びや感想を表８に示した．３年次生からの報告で，２年次生は主体性の大切さや，自分たちでルールから考え活動を創り上げることの大切さを学んでいた．また，自分のやりたい活動や関心に気づき，頑張ろうという思いや将来につなげたいという思いを高めていた．一方で，自分たちにもできるのか不安を感じる声もあった．

表８．３年次生の報告会に参加し２年次生の学びや感想についてグループで話し合った内容

・自分で事業を立ち上げた学生の報告から主体性の大切さを学んだ
・ルールも自分たちで考えて作ることができる
・10日間の実習日数が終了してもボランティアを続けたい
・自分のやりたいこと・関心が分かった
・思いやりやコミュニケーションの大切さを学んだ
・頑張ろうという気持ちになれた
・将来につなげたい
・苦手意識を克服したい
・自分たちにもできるのか不安

表７．３年次生の主な学び（記録からの抽出）

活動を通して喜び楽しさを実感する

- ふれあうことが楽しい
- 喜んでもらえることの喜び
- 学生の力でも地域に貢献することができると実感できた

異世代や多様な交流を通して人との関り方・配慮の仕方を学ぶ

- 高齢者や子ども等異世代・在日外国人・障がいのある方等普段かかわることのない方々との交流を通して関わり方を学べた
- 場面場面に応じた援助の仕方とは何かを考える機会になった
- スポーツを楽しむ中で、コミュニケーションが生まれていることに気づかされた
- 手話を通して聴覚に障がいをもつ方とも会話ができる可能性を感じた

自ら活動を企画する難しさと面白さを学ぶ

- 企画を通して対象のニーズ、広報の仕方、当日の運営等難しさと面白さを学んだ
- 健康教育の実施は多くの知識が必要で、自分が学びを深めておかなければならない
- 企画の大変さと難しさを学び、企画者への尊敬と一生懸命取り組もうという意識が芽生えた

地域活動に対する自分の姿勢や向き合い方の課題に気づく

- ”自分から積極的に関わる”ことが自分の課題であると気付くことができた
- 指示されたことだけでなく、その活動について十分に理解した上で、自分でも考え行動することを学んだ

考　察

１．学びのつながり

2021年度における地域健康サポーター実習の取り組みについて報告した．３年次生には活動から得られた学びがあり，２年次生には３年次生の報告から地域健康サポーター実習を前向きにとらえ，関心を高めている様子が見られた．３年次生から２年次生に学びが伝えられていたことから手ごたえを得ることができた．先輩などの前例がない中で，工夫しながら実施することができた．引き続き，３年次生においては，学生の関心ややりたいこと，将来の関心につながるような活動を見つけられるよう支援していく必要があると考えられた．報告会で，３年次生の学びから２年次生が学んでいたように，３年次生を支援することで，２年次生に学びやネットワークが引き継がれるように支援していくことが必要と考えられた．

２．今後の課題

本実習は，地域の様々な専門職や地域住民からの支援を得て成り立っている．今年度はコロナ感染対策を踏まえ，報告会には学外で学生がお世話になっている方々の参加の呼びかけはできなかった．今後は，地域の支援者の方々にも報告会への参加を得ることで，学生の活動成果の共有や交流の機会とすることが今後の課題と考えられる．

謝　辞

本実習にご理解とご協力を頂き，学生を温かく受け入れてくださった地域の皆様に心より感謝いたします．

Introduction of practical training for Community Health Supporters at Kagawa Prefectural University of Health Sciences

Mari Okada[1)], Yoko Katayama[1)]

[1)] *Department of Nursing, Faculty of Health Sciences, Kagawa Prefectural University of Health Sciences*

Abstract

The purpose of this paper is to introduce the practical training of community health supporters at the Department of Nursing, Faculty of Health Sciences, Kagawa Prefectural University of Health Sciences, which was started in 2021. Community Health Supporter Practical Training is planned and implemented by students during their free time without classes or practical training between the second and fourth years (2 credits: 10 days). The purpose of this program is to learn about the state of local activities and the attitudes of participants through hands-on experience by participating independently in local communities. In April, a debriefing session by third-year students and an orientation session for second-year students will be held, and in September, a questionnaire survey will be conducted to grasp the progress of students' implementation. At the 2021 debriefing session, there were activities related to child-rearing support, support for people with disabilities, support for the elderly, disaster relief volunteers, health support, Red Cross volunteers, and support for foreign residents in Japan. The main lessons learned from the activity records of the third-year students were classified into four categories: "experiencing joy and enjoyment through activities," "learning how to relate to and care for people through interaction with different generations and diverse exchanges," "learning the difficulty and fun of planning activities independently," and "noticing the challenges to one' s own attitude and way of facing community activities." From these third-year students' reports, the second-year students learned the importance of independence and the importance of creating activities through devising rules by themselves. The challenge for the future is to provide support for continuing activities and make them into opportunities to contribute to the community through this training.

Key Words：community, health, practical training, experiential learning, independence

*Correspondence to : Mari Okada, Department of Nursing, Faculty of Health Sciences, Kagawa Prefectural University of Health Sciences, 281-1 Hara, Mure-cho, Takamatsu, Kagawa 761-0123, Japan
E-mail: okada-m@chs.pref.kagawa.jp